

## 大阪大学外国語学部タイ語専攻研究室



海外交流

宮本マラーシー\*

Osaka University, School of Foreign Studies Thai Major

Key Words : Research Institute for World Languages

### サワディー

「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」、や「はじめまして」、「さようなら」という意味でも用いられる「サワディー」という日本でも知られるようになった挨拶言葉には、「ワイ(合掌)」と呼ばれる、両手を合わせる挨拶行動が伴われます。日本以上に縦関係を重視するタイでは、この言語行動においても、年下、目下の者から先にするのが常識です。そしてタイの挨拶行動で忘れてはいけないのが「微笑み」です。「サワディー」や「ワイ」とともに微笑むのがタイ式挨拶。なにしろタイは「微笑みの国」ですから。

### マイ、マイ、マイ、マイ、マイ

それでは、少しタイ語についてお話ししましょう。日本語では、「マイ」という単語は声調が低くても高くても意味に影響はないが、タイ語では声調が低いなら「新しい」、声調を落とすと「燃える」、高くすると「木」、上げると「絹」という意味になります。このように声調と意味は密接な関係を持つところが日本語と大きく違います。また、性、数、格、時相による語尾変化をせず、日本語のテニオハのような助詞にあたる言葉もなく、各語の文法的役割は文中における順番によって決まる言語です。例えば、「<sup>犬</sup>・<sup>咬む</sup>・<sup>彼</sup>・カオ」は「犬は彼を咬んだ」ですが、

「<sup>彼</sup>・<sup>咬む</sup>・<sup>犬</sup>・カオ」であれば、「彼は犬を咬んだ」、  
「<sup>犬</sup>・<sup>咬む</sup>・<sup>彼</sup>・カオ」は「彼の犬が咬んだ」、「<sup>咬む</sup>・<sup>犬</sup>・<sup>彼</sup>・カオ」は「彼の犬を咬んだ」というように語順によって内容が変わります。声調はすぐに慣れるし、文法も複雑ではないので、日本人にとっては比較的学びやすい外国語だと思います。

### 60歳になるタイ語専攻

外国語学部タイ語専攻は、1949年に旧大阪外国語大学で、タイ語学科として開設されました。2009年には60周年を迎えます。タイの言葉、文学、文化、社会、政治、経済、歴史についての授業が3名の専任教員と一人のタイ人特任教員(2008年度の特任教員は交流協定校のチュラーロンコーン大学文学部タイ語専攻から着任しています)によって行われています。さらに、タイ料理やタイ舞踊のような文化実習もタイ人特任教員によって行われます。特にタイ舞踊の場合、学生(主に1年生)が大学の夏祭り(写真A)、文化祭、またタイ語卒業生の同窓会(白象会)において実演する機会もあります。



\*Marasri MIYAMOTO

1956年12月タイ国バンコクで生まれる  
1977年タイ国立チュラーロンコーン大学卒業  
1977年日本国費留学生として来日、大阪大学留学

1985年大阪大学大学院終了  
現在：大阪大学世界言語研究センター教授 タイ語・文化

TEL : 072-730-5278

FAX : 072-730-5278

E-mail : miyamar@world-lang.osaka-u.ac.jp



写真A：2007年度の夏祭りで、タイ語専攻1年生によるタイ舞踊。

### 日本人の学生とタイ人の留学生

タイ語専攻の日本人学生がタイから来た留学生と交流する機会は少なくありません。様々な催しや祭り以外にも、日本人学生とタイの留学生と一緒に学習出来る授業が設定されています。たとえば、私が担当している『タイ語学演習』には毎期、留学生7～8名が参加します。授業は、日本人とタイ人の言語コミュニケーションと文化について比較し、討論するものであり、日本人学生と留学生は互いの言語の特徴と文化を学び合うことができます。教室の外でも互いに助け合うこともあります。2005年から2007年まで取り組んだ現代GPプログラム「異文化障壁を乗り越える対話と交渉能力の育成——実践的eラーニング言語教育プログラムの展開」における会話の作成や撮影もタイ語専攻の学生とタイ人の留学生の協力による成果の一つです。

### 日本語専攻との協力

タイ語専攻は専攻語内だけではなく、日本語専攻と協力し、タイの大学の教員と大学院生の共同研究発表会を今までに数回行ってきました。2008年3月22日にも箕面キャンパスにおいて催された「日本語・日本文化タイ日国際シンポジウム」には多くのタイの大学からの研究者と日本人の研究者が参加し、日本とタイの言語文化や教育についての発表や意見交換を行いました。日本語とタイ語の対照研究にとって有意義なだけではなく、日本の大学とタイの大学の学生と教員の交流の場にもなりました。

### 交換留学生

学生交流はさらに、旧大阪外国語大学時代から、タイの大学との間で留学生の交換を積極的に行ってきました。現在大阪大学は、8校のタイの大学と大学間及び部局間の交流協定を結んでいます。それに基づいて、タイ語専攻の学生をタイの大学に交換留学生として年に数人派遣しています。2007年度には15名の学生がタイの大学に留学しましたが、その内の12名は交換留学生です。2008年度にも、8名の学生が、チュラーロンコーン大学、シラパコーン大学(写真B)、コーンケン大学、そしてチェンマイ大学に約1年間の予定で留学しています。留学から帰ってきた学生は語学能力の向上はもちろんですが、タイ人の生活に入って、タイの文化やタイ



写真B: 2007年度にタイのシラパコーン大学に留学した学生。  
シラパコーン大学の女子学生制服を着用している。

人のものの考え方、価値観を直接経験出来たことで、視野も広がり、勉学や生活により自信が持て、さらに、異文化を尊重することができるようになっていきます。このような成果は教育の持つ一つの目標に到達したと考えても大げさではないでしょう。たとえ、彼らが将来タイ語を活かせる職種に就かなくても、在学中、留学中に得た知識や経験は生活や仕事をより豊かに充実したものにしてくれるものと信じます。そして、それこそ教員である私の望むところであり、喜びとするところです。

### 卒業生

卒業生は必ずしもタイ語を活かせる職種に就けるとは限りませんが、タイと何らかの関係がある職種や企業だけに絞って就職活動をする学生がここ10年で増えてきています。タイに住んで働いたり、日タイの架け橋となる仕事を希望する学生も少なくありません。最近ではタイ語が出来る学生を求める企業も増えてきました。英語だけでなく、タイ語のようなマイナーな言語にも以前より需要が増していることを実感いたします。それだけ日タイの交流がより深く、幅広くなり、そして、順調に発展している証でもあるのでしょう。その良好な関係が築かれてきた中で、本学の卒業生の方々の活躍や貢献度は決して小さなものではなかったはずです。

### これからのタイ語専攻

日本におけるタイ語教育は60年以上の歴史を持っています。グローバル化によって、その重要性がますます認識されるようになっていきます。専攻語の教員はそれぞれの専門分野によって多くの

研究成果を残してきています。中でも、大阪外国語大学名誉教授の故富田竹二郎先生によって編集された『タイ日辞典』は日本におけるタイ語教育と研究には欠くことができない最も重要な参考文献の一つであり、専攻語の誇りとするものです。今後も様々な分野で、増々の交流が深まるであろう日タイ関係における両社会のニーズに応えることが出来るよう、そして、日本におけるタイ語教育の更なる発展と充実に貢献出来るよう、学生の指導と研究に精進して

いきたいと考えています。

上記の文章のタイ語要約を下に記しておきます。タイの文字は、13世紀末に、初代の王朝であるスコータイ時代の王様によって作られたものと言われています。語と語、句と句、そして文と文の間を区切る句読点がないため、各文がどこまで続くのか分かりにくいので日本人学習者を悩ませることもしばしばです。

บทความข้างต้นนี้ได้แนะนำลักษณะพิเศษทางด้านเสียง ไวยากรณ์และการใช้ภาษาไทยที่แตกต่างจากภาษาญี่ปุ่น กล่าวถึง ประวัติความเป็นมาของภาควิชาภาษาไทย การเรียนการสอน ความร่วมมือและความสัมพันธ์ระหว่างนักศึกษาญี่ปุ่นที่เรียนเอกภาษาไทยกับนักศึกษาจากประเทศไทยที่นำศึกษาภาษาญี่ปุ่นที่มหาวิทยาลัยโอซากา นักศึกษาแลกเปลี่ยนที่ไปศึกษายังมหาวิทยาลัยต่าง ๆ ในประเทศไทยที่มีสัญญาการตกลงให้ความร่วมมือทางวิชาการกับมหาวิทยาลัยโอซากา รวมถึงผลดีจากการไปศึกษาที่ประเทศไทยของนักศึกษาแลกเปลี่ยนดังกล่าว นอกจากนี้ยังกล่าวถึงแนวโน้มที่เปลี่ยนไปในด้านความคิดเกี่ยวกับการหางานทำของนักศึกษา สุดท้ายได้แสดงจุดยืนของภาควิชาที่มุ่งจะพัฒนาการให้การศึกษาและการวิจัยเพื่อประโยชน์ของการศึกษามานาไทยในญี่ปุ่น และ เพื่อความสัมพันธ์อันดีระหว่างประเทศไทยและญี่ปุ่นต่อไป

